

# 白根市の将来像を見る

人に人生設計があるように、まちにも人生設計があります。

それが「総合計画」。向こう十年間の市のまちづくりの基本方針となるものです。

市では昨年、この計画の作成のために市民意識調査を実施。たくさんの方の市民の皆さんから、生活環境や居住意向などについて回答をいただきました。

この中に皆さんが思い描く「白根市像」が見えてきます。それはどんなものなのでしょうか。

調査結果を基に探ってみましょう。

## 市民意識調査(まちづくり市民アンケート)

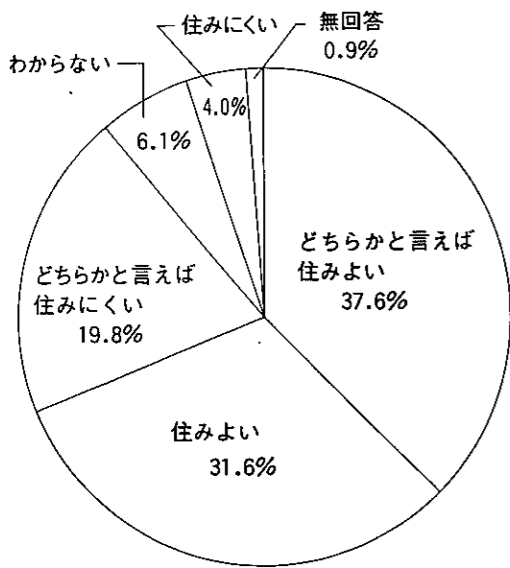
市民の皆さんが、日ごろ市政に何を望み、またまちづくりについてどのように考えているのかを調査したものです。これは「第4次白根市総合計画」をつくる上での基礎資料となります。

- 調査方法 住民基本台帳から20歳以上の男女1,300人を無作為に抽出。調査票を郵送し、回収しました。
- 主な調査項目 住みよさ、生活環境、市政への参加、コミュニティ活動、将来の都市像、行政施策の優先度、地域や白根市全体の活性化
- 調査期間 平成6年10月18日～10月31日
- 回収結果 回答者数757 (回収率58.23%)

### 白根市は住みよいまち?

「あなたにとって、住みよいまちとはどんなまちですか?」という聞きかたとき、あなたは「緑がいっぱいあるまち」ですか? 「緑がいっぱいあるまち」が答えられる人もいます。お店がいっぱいあって買い物が便利だといいわ、「都会的で遊ぶ場所があるのが最高さ」など。その人の価値感でさまざまな答えが返ってくるでしょう。

グラフ1をご覧ください。これは「白根市は住みよいまちだと思いますか」という質問への回答です。「どちらかといえば住みよいまち」と答えた人は37.6%、「住みよいまち」と答えた人は31.6%。程度の差はあるにしても、約7割の人は住みよいまちだと思います。

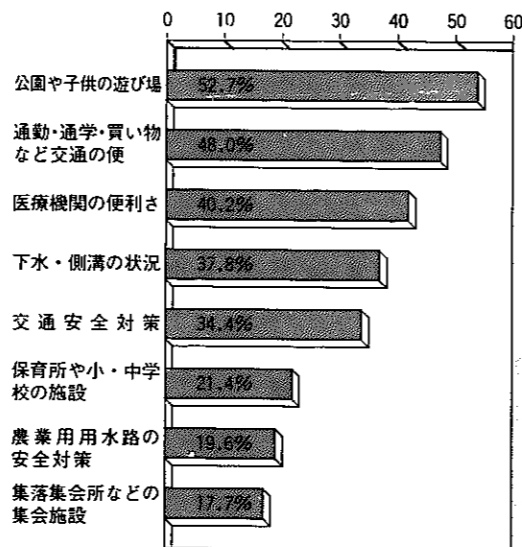


グラフ1 ■ 白根市全体を見た場合、あなたは白根市を住みよいまちだと思いますか?

的に多かったのは「住み慣れているから」というもの。以下、「食べ物新鮮でおいしい」、「隣近所との付き合いが良い」、「気候や風土が良い」と続きます。「住めば都」というのが最大の理由のようですが、人間関係の良さ、自然をはじめとした環境の良さ、鮮度の良い食料品を入手しやすいことなどが、住みよさを感じさせる大きな要素となっています。

逆に「白根は住みにくい」と評価した人は23.8%。4人に1人は住みにくいと思っています。通勤・通学・買い物の便が悪い、「商店が少ない」、「文化施設が充実していない」などが大きな理由。これらの理由は前回の調査(昭和59年度)でも多く挙げられており、その割合は一段と増加しています。

グラフ2 ■ 次の生活環境について不満を感じますか? (不満回答の割合)



### 生活面での良い点、悪い点

グラフ2は、生活環境の中で不満に思うもののワースト8。「住みやすい」と答えた人も「住みにくい」と答えた人も含め、全員が回答したものです。公園や子供の遊び場の不足、通勤・通学・買い物などの交通の不便さ、医療機関、下水・側溝などの整備状況を不満に思う人が多くいることが分かります。反面、良いものとして挙げられたのは「家の周辺の空気や静けさ」、「ごみの収集と集積場所の状態」などでした。

「自然・食べ物には恵まれている。人間関係も悪くない。でも、何をしても交通の便が悪いし、社会資本の整備も相変わらず遅れているんだよね」というのが、おわたの意見と聞えるのではないですか。

### 総合計画とは?

白根市のまちづくりの長期的な基本方針。10年を周期として立てられます。

総合計画は昭和47年の第1次以来、今回で第4次目。来年度中につくられ、平成8年度から17年度までの10年間が実施期間となります。

第4次総合計画では、住民参加型の計画づくりを進め、市民の意識や意向を尊重したまちづくりを目指します。

このため市では談話・談話会や地区別市政懇談会、市政モニター制度などを活用していくほか、市民フォーラムの開催や(仮称)市民委員会の設置も行っていきます。

総合計画をつくるためには、市民の皆さんの声が何より大切です。市政への意見・要望をお聞かせください。これからの白根市を市民全員で考え、素晴らしい計画にしていきましょう。

自然や食べ物、人間関係は良好だけど、交通事情は大いに不満

白根市の住みやすさ